

わたしの好きな よりのい

No.137



ひいろ ＜緋色のじゅうたん＞



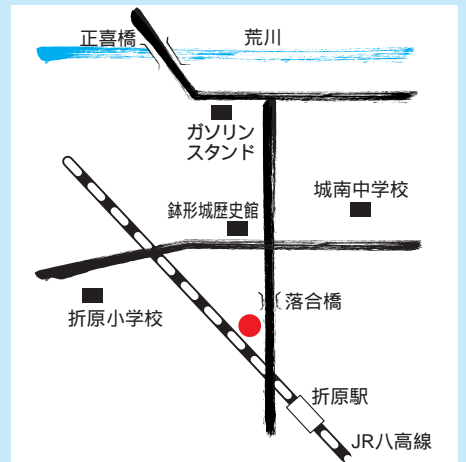
奈良喜久雄さん
(立原)

落合橋の西側に我が家の田んぼがあり、この田んぼを包み込むようにして土手が広がっています。私の亡き父の話では、今から80年余り前の大雨の時に、モグラの穴から入った水の影響で土手が崩れてしまったそうです。土手を修復する際、階段状に彼岸花を植えたとのこと。彼岸花の球根には毒があり、もぐら除けになるようです。

彼岸花は、例年9月中旬から咲き始め、花が終わると、つるつるとした葉が翌年の春先まで繁りません。私が幼い頃、土手の急斜面を

利用し、つるつるとした葉の上を滑って遊んだ記憶が蘇ります。晩春に他の草の芽が出る頃葉は枯れ、仮眠状態に入ります。土手の草刈は年に5回程度行いますが、この草刈を怠ると美しい花を觀賞することはできません。

先代が土手を守る知恵として植えたこの彼岸花。緋色の花と黄金色に波うつ稲穂のコントラストを楽しむため、今日も草刈に精を出しています。



わが町の 達人 切り絵の達人 No.6



榎本 弘さん (露梨子)

皆さんから「達人」と言われると、おこがましい感があります。このような機会をいただきましたので、一人の切り絵講師として、切り絵の制作、魅力について皆さんにお話をさせていただきます。切り絵を作るには、まず、制作し

このコーナーは、「寄居生活学の達人」として町に登録をいただいている町民講師の方々を中心に、そのうちくちや技術、体験などを町民の皆さんに紹介するコーナーです。

たいと思う風景、人物などをスケッチまたは写真で撮影したものなどをコピーし、コピーした用紙の上にトレーシングペーパーを載せます。そして、光と影を考えて筆ペンで墨入れをします。

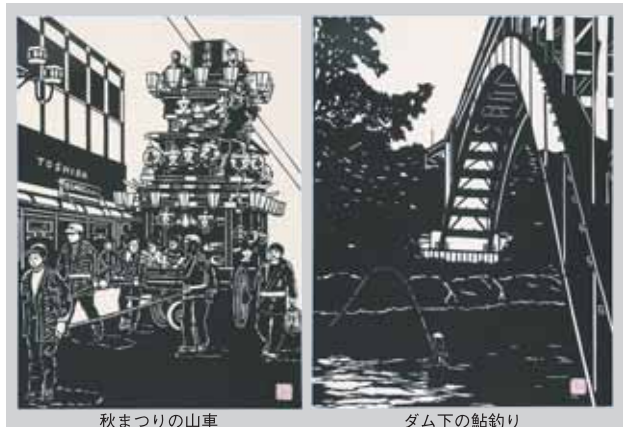
次の段階として、墨入れをしたペーパーを黒の台紙の上に載せます。この時、ペーパーが動いたり、ずれたりしないようにテープあるいはホチキスでしっかり止めるのがポイントです。後は、カッターナイフで「白」の部分の切り抜きます。切り抜きが終わったら、上に載せたペーパーを取り除くと下の黒紙が作品となります。

最後に、作品の裏側にのりまたはスプレーのりを吹き付け、

白の台紙に貼れば完成です。

墨入れした絵をたった一本のカッターナイフで切り出す「切り絵」。白と黒のコントラストをシャープな線で創り出す繊細さは、他の技法では表現できないと思われれます。

細かい手作業ですが、制作に集中すると時間が過ぎ去るのを忘れてしまうほど夢中になれるのが切り絵の魅力です。皆さんも一度切り絵を体験してみませんか。



秋まつりの山車

ダム下の鮎釣り